

衣川小学校

児童数 108 人
所在地 奥州市衣川古戸 414- 1 ☎ 52-3202



衣川小学校は、平成 18 年に旧衣川、北股、南股の小学校が統合し、開校しました。地域には衣川・北股川・南股川が流れ、北股川上流には、「衣川」の地名の由来ともなった「衣の滝」があります。また、安倍貞任と源義家のやりとりから名付けられた一首坂や奥州藤原氏にちなんだ史跡もあります。旧衣川小学校大森分校は、三好京三氏の直木賞受賞作「子育てごっこ」の舞台となりました。

本校は、独自のコミュニティ・スクールがあり、学校・保護者・地域が一体となり、今年は「強い心とやさしい心」をモットーに知・徳・体の調和のとれた子どもを育てる教育活動を展開しています。

衣川のお宝たんてい団



低学年の発表会の様子

2 年生以上の児童が「衣川のお宝たんてい団」の学習に取り組んでいます。衣川の自然や文化、歴史などの中から、各地区センターの支援を受けて、児童が調べたいことを決定します。そして、夏休み中に家族や学習サポ-

学校通信

踊り継がれる「み神楽」

4 年生以上の児童は、毎年運動会で「み神楽」を披露します。この「み神楽」は、昭和 45 年に大森分校に勤めていた三好京三氏が、小坂盛雄教育長から教わりながら創り上げた「大森神楽」を継承した神楽です。現在も大森神楽保存会の皆さんの指導を受



運動会での「み神楽」発表の様子

けながら練習を重ね、運動会をはじめとした地域の祭りなどで披露しています。2 月には、6 年生から 3～5 年生へ引き継ぎが行われ、踊り継がれています。

ターの協力を得ながら調べます。まとめた「衣川のお宝」は、9 月 3 日に行われた発表会で披露しました。

あるゴーの日

衣川小学校では、「あるゴーの日」として、6～11 月までの 5 の付く日は全児童が歩いて登校する取り組みを本年度から始めました。「あるゴー」の「ゴー」は、「5」と「GO」の意味を表しています。体力づくりや、思いやる力を養うことなどを目指すもので、バス通学の児童は、衣川セミナーハウスでバスを降り、そこから歩いて登校しています。「あるゴーの日」には、地域の皆さんや学校職員などが児童の安全を見守っています。



バスを降りて歩きます

小中合同引き渡し訓練



中学校で迎えを待ちます

衣川小学校は衣川中学校に隣接しており、小中が連携して合同の保護者引き渡し訓練を行っています。3 回目となる今年は、8 月 27 日に各校で大地震を想定した避難訓練を実施し、その後、児童・生徒を保護者に引き渡しました。保護者へ訓練実施のメールを配信するとともに、児童が中学校へ移動し、保護者の迎えを待って下校します。有事に備え、保護者へのスムーズな引き渡しができるよう、今後も訓練を重ねていきます。

世界遺産を見学

衣川は、平泉町の北側に隣接しており、奥州藤原氏とも縁のある地域です。その地域に住む児童として、本校では毎年 5、6 年生が世界遺産見学をしています。歴史に詳しい地域の方に案内をいただきながら、5 年生は中尊寺と毛越寺を中心に、6 年生は高館義経堂、無量光院跡などを見学します。平泉の価値の一つである浄土思想も理解しようと、歴史的な建造物や文化などに触れながら、感じ取ったことを俳句で表す学習も取り入れています。



毛越寺を見学しました



▲人首丸



▲宮沢賢治「人首町」詩碑

米里地区は市の北東部、種山ヶ原・五輪峠の麓に位置する、自然と歴史豊かな場所です。
平安時代、蝦夷の英雄アテルイの甥ともいわれる「人首丸」の名前が地名の由来として残り、蝦夷最後の地として激戦が繰り広げられた地でもあります。戦で亡くなった人々の霊を弔うため、坂上田村麻呂が建てたといわれる神社も残っています。

かつて人首町の山手には「人首城」があり、城下町としてにぎわいました。その後、宿場町として栄えたこの町には、若き日の宮沢賢治が 2 度訪れたという記録もあり、その旅籠から眺めた景色を読んだ「人首町」という詩が残っています。俳人・川東碧梧桐も米里を訪れ「人首」と書いて何と読む寒

さかな」という詩を詠んでいます。レトロな街並みが現在も残り、タイムスリップした気分になります。また平家の落人伝説が残る集落や、大きなハリストス正教とカトリック教会があつた町など、山に囲まれ三陸との街道筋であつた地域ゆえの歴史がたくさん残っています。山には資源が豊富で、林業をはじめ、昔は金の採掘も盛んでした。戸中金山、古歌葉金山、大野金山など金山跡も数多く残っています。ふるる歴史ある地域です。

米里の宝① 米里音頭

米里には米里音頭という曲があります。「♪ここは米里 お館の桜みんな踊ろよ村祭り 誰が呼ぶやら 田植えの歌に 心が心心がこだます♪」といった春夏秋冬の米里の景色がうたわれています。昔から夏の盆踊りとして踊られていましたが近年は途絶えていました。これを青年会が中心となり、今年 8 年ぶりにこの盆踊りを復活させ、町に米里音頭が響き渡りました。会場には手作りのあんどんが飾られ、帰省した人や地元の人などみんなで米里音頭を踊り、夏の思い出の 1 ページとなりました。



米里の宝② 兄和田念仏剣舞

米里の伝統芸能・兄和田念仏剣舞。始まりは 808 年、「権大僧都法印善行院忠慶」という僧が、出羽の羽黒山で仏道修行中に会った旅僧から、「念仏剣舞こそ悪魔を退散させ如意繁栄をはかる菩提である」と悟され、剣舞を教授されました。その忠慶が自ら巻物をしたためて、羽黒山で修得した念仏剣舞を兄和田集落に伝授したものです。現在 20 人が継承活動を行い、地域の行事や小学校の児童への指導などを行っています。



米里の宝③ 清流 鳴瀬川

カジカやヤマメが生息する清流鳴瀬川。毎年 8 月 15 日に開催する「雑魚（ざっこ）おしえ」は、20 年以上も続いている大人気行事です。地元のボランティア団体「ざっこの会」の皆さんが、ヤマメのつかみ捕り体験を企画し、捕ったヤマメを炭火でおいしく焼いて食べさせてくれます。毎年、米里地区内外よりたくさんの親子が参加し、川に親しみ自然の恵みを満喫できる自然体験を楽しんでいます。

